

エピソード

段ボールつみころゲーム～その名もつみころ～でにじ組と対戦すると、一分近く差がついて負けてしまった。「にじ組は強いな」と認めるとともに、「②チームが倒すのに時間がかかっていたから、投げるのが得意な人が②チームに行った方がいいと思う」と、時間がかかった理由と解決案を考えた。それを聞いた友達も「うん。そうしよう」「僕(Aくん)投げるの強い」「Bくんも投げるの上手やんな」「うんうん。Bくんはすごい」「Bくんのボールはカチカチやから強いねんで」「じゃあAくんとBくんが②チームに行ったら、②チームも強くなっていいんじゃない?」と、得意なことが活かされるようなチーム分けを考えた。

そして給食を食べた後「先生、ガムテープある? ボールをカチカチにして強くしたいな」と新聞紙ボールにさらにガムテープを巻き、固くて段ボールが倒れやすいボールに改良し始めた。その姿を見た友達もやってきて「僕もガムテープを貼ろう」「Bくんぐらいカチカチにしたらすぐ倒せるね」「いっぱい巻いたら重たくなってきた」「Bくんのも重たかったよ」と気付いたことを話しながら自分だけのこだわりのボールをつくった。「明日はつみころする?」「早くこのボールで戦いたい」「次はにじ組に勝つぞ!」「②チームも強くしたし、ボールも進化したから次は絶対勝てるよ」と、次の対戦を心待ちにしていた。

子どもの育ちや学び

負けちゃった(悔しい)

投げるのが
得意な人が
②チームに
行こうよ
(考える・提案)



Bくんのはガムテープでカチカチやで(気付き)



Bくんみたいに強く
しよう(友達を褒める・
良い方法を取り入れる)

- ・勝負に負けて悔しい気持ちをもつ。
- ・時間がかかった理由や、どのチームが困っているのか、どうすれば早く倒せるのかを考える。
- ・友達の得意なことに気付き、認める。
- ・得意なことが活かされるようにチーム分けを考える。

- ・投げて倒すことが得意なBくんがつくったボールに着目し、見たり手に持ったりして自分のボールとの違いに気付く。
- ・Bくんと同じ様にカチカチの固いボールをつくる。



次はにじ組に勝つぞ!
(諦めない、挑戦、ワクワク)



- ・負けたからこそ、課題に気付く。それに対して手立てを立てたことで、「次は勝てるんじゃないか」と次回の対戦にワクワクしている。

保育者の思い

- ・“積む”過程では段ボールの向きや積む場所、段ボール同士の間隔や重さのバランスなどによって、“倒す”過程では投げる強さやねらう場所、ボールの大きさや形、固さなどによって、倒れるまでの時間が決まります。様々な要素が関係するゲームですが、そら組の子ども達は“投げる強さ”と“ボールの固さ”に着目しました。一学期からボーリングに興味をもち、積むことよりもものを倒すことに面白さを感じている姿に合わせて、作戦会議でも倒し方に焦点を当てて話し合うようにしました。
- ・つみころに取り組む中で友達の得意なことに気付いたり、それを素直に褒めたりする姿が見られました。その姿を保育者がクラス全体に知らせることで、褒められた子は自信をもって力を発揮し、他児も友達の良い方法を取り入れるようになりました。

家庭だったら・・・

「そこに目をつけるのか!」と子どもの観察眼に感心することがあります。子ども達のこだわりに、ぜひ耳を傾けてあげてください。